

徳山ダム導水路

徳山ダム(岐阜県揖斐川町)をめぐり、河村たかし名古屋市長が表明した「木曾川水系連絡導水路事業」からの撤退方針が、大きな波紋を広げている。市長が撤退の



根拠に掲げる「水余り」は本当なのか。徳山ダムの水がなくても、将来の異常渇水に備えた対策は万全なのか。導水路を推進、反対する双方に聞いた。(社会部・豊田雄二郎、白石亘)

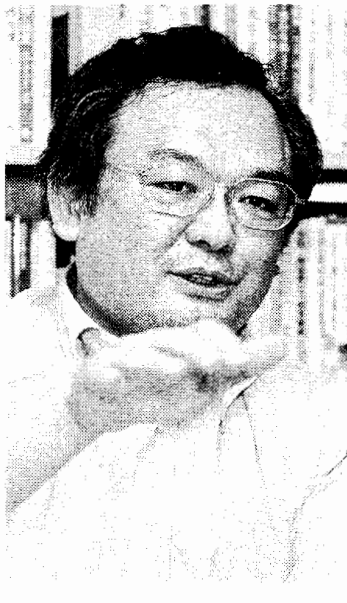
反対派

木曾川水系の水は 確かにこの二十年で余っているのか。 三割ほど減っている。

名古屋市だけを見れば、一日の給水量は最も多い日でも百万トシムや味噌川ダムがあれかないのに、水利権は十分。市の水需要予百六十万トもある。給測は大間違いで、実績水量の平均は八十万トと日量二十万トくらだから倍。これはもう長良川河口堰はいろいろ、言い訳が利かない。水余りはない。

木曾川の流量は減っているよつだ。 一九九四年のよう

法政大教授 (人文地理学) 伊藤 達也氏(48)

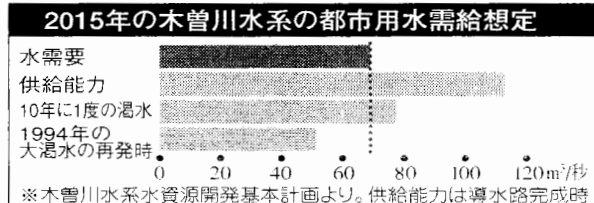
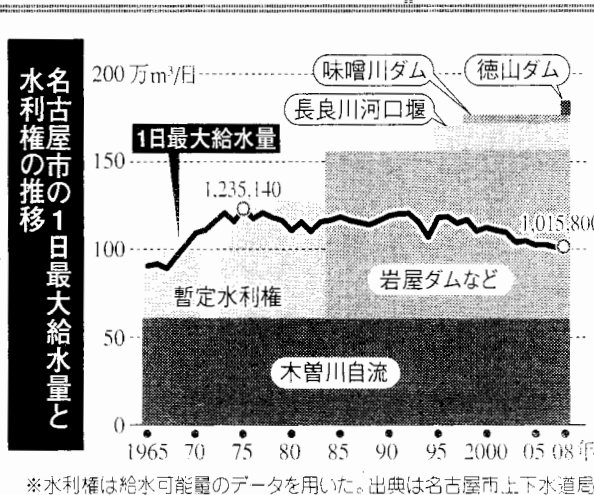


すべてのダムが空になっていないということ。水を節約すれば大丈夫。もともと導水路に流す徳山ダムの水利権

水余り数字で明白

は、わずかしかなしい。河口堰の必要性ばかり強調したいのは、相手が自然現象だけに、農業用水などの水利調整が進んでいない。維持管理費を考えた。断水の危機はなくなら

木曾川水系連絡導水路事業 揖斐川と木曾川を全長43キロの地下トンネルで結び、徳山ダムの水を毎秒4秒、渇水時は同20秒、木曾川に放流する。木曾川には愛知県と名古屋市の取水施設がある。2009年度着工、15年度完成が目標。総事業費890億円は国と東海三県、同市で負担する計画だが、河村市長は撤退方針を表明し、市負担分121億円のうち、本年度分1億6000万円を支払わないと国などに通告した。夏をめどに市として撤退を最終決定する。



いとう・たつや 金城学院大教授を経て2008年4月から現職。著書に「木曾川水系の水資源問題」(検証 岐阜県史問題)など。

円も投じて徳山ダムを必要性を強調する。先造ったのに、水需要がに結論ありきで、つじ減り、渇水対策も農業つまを合わせようとする。水で十分では、国民るから、矛盾だらけ。をだましてきたことが科学的根拠もない。明白になってしまつ。 河村市長は夏をめど

水需要の減少がはっに市の結論を出すと言きりしてきたため、国っているが、これまで渇水時に川の水がな考え方をゼロから見直すのだから、もっと時間をかけてもいい。

木曾川水系で水余りは起きているか。でも年間一四〇〇ミだ

とんでもない。同水つつたが、一九九四年は

系の水資源開発基本計画で、三県一市の水需

要に比べて供給能力が上回っているのは事実

だが、ダムは渇水時に水を補給するためにあ

る。今は地球温暖化で雨量が減り、川の流量

も減っている。過去百年で見ると、

減っている。

予測は国土交通省でなく、市や県が立てる。

自治体として無責任に減るとは予測できない

の。九四年の渇水では農

業用水の不足が懸念

されている。徳込み、知多半島の断水

を回避した。農業用水の管理は代々受け継が

る。ただ、農業用水関係は長期的視点で判断す

べきだとされている。るといわれるほど。木論に加わってきたし、

渇水時に農業用水の仕組みが構築され

ていない。例えば、水利権を

三県一市の中でも

名古屋市のみに

限られているのでは。

九四年に実際にあった話だが、隣の自治体

が必要だ。

温暖化 渇水を懸念

推進派

中部地方整備局
河川環境課長

笹森 伸博氏(52)



し、実績との乖離が生業用水の関係者に頼み譲ってもらうとか。名古屋市のみに限られているのでは。九四年に実際にあった話だが、隣の自治体が必要だ。

が断水で苦しんでいるのに、名古屋市は噴水も止めなかった。こういことが許されるの明というか、大正時代

に当時の年間予算の倍近いお金を投じ、木曾川に水の既得権を確保しているから、他県とは事情が違う。

調整もなく放り投じていいの。長い議論が必要だ。